

工業部会通信

(発行) かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階 ※自由に読みください。

かながわ経済新聞
 KANA KEI

工業部会の注目企業

特集



調印するMEMOテクノスの渡邊社長(右)

MEMOテクノス 自律搬送分野に参入 韓国ベンチャーと提携

MEMOテクノス(南区大野台)は、自律搬送ロボット(AMR)分野に参入した。自律運転技術を得意とする韓国のロボットベンチャー企業、ポテニット(POTENIT、ソウル市)と技術分野で業務提携。ポテニットのAMRをMEMOテクノスが日本の現場にマッチするようにカスタマイズし販売する。人手不足にもかかわらずロボット化が進んでいない重工業分野などで、工程間搬送での用途が見込めるとしており、販路を開拓していく。ポテニットは、韓国の

斗山グループ傘下の建設機械メーカーが出資する企業。AMRや建機を無人で自律運転させる技術などを持っている。ベンチャー企業ながらも、韓国では同技術の先進企業として知られている。一方、MEMOテクノスは音響や制御装置など

される重工業分野では、人手不足や高齢化が課題となっており、重いものを搬送する作業などはロボット化できます」と渡邊将文社長。AMRで重さ1トン以上の搬送を想定しており、過酷な環境下でも耐えられるようアレンジも

を手掛けているが、ここ数年はロボット分野のシステムインテグレーター(Sier)事業を強化している。ポテニットのAMRを中心に、作業現場に合わせて、ロボットシステムを提案、メンテナンスまでを担当する。「工場環境が過酷と

相模原商工会議所工業部会の活動は大変活発で、県内でも別格な存在だと云われることがあります。確かに、部会員となる経営者たちの連携は深く、会活動でも企画力と実行力がみなぎっていると感じています。その理由をお話します。

まず、部会で活躍する経営者たちは、原則42歳で卒業となる下部組織「青年工業経営研究会(青工研)」から輩出されています。次にもう一つの下部組織「近未来技術研究会」で互いの交流を深めています。そこです

さまざまな議論を重ね、アイデアを生み出し、活動に反映させています。一方、部会本会の活動は、「GET」「TRY」「KIZUNA」の3プロジェクトで構成されています。TR Yは、視察を中心とした研修や勉強会を企画します。範囲はドイツやスペインなど海外に及ぶこともあります。KIZUNAは、会員交流(異業種交流会)などの活動を頻りに企画しています。そこで提供してきます。そこで経営者同士が仲良くなり、生きた情報交換をしているのです。結果として、それが活発な活動にもつながっています。企業経営はよく「人・モノ・カネ・情報」と言われます。ただ、それだけでは不足です。経営者たちの「真の人間性」を感じ、刺激を受けながら自身・自社の成長につながる交流も大切です。こうした機会を部会は提供し続けているのです。(相模原商工会議所・工業部会副会長、湘南デザインCEO)

多機能クッション発売 リガルジョイントが用途開拓



リガルジョイント(南区大野台)は、新素材「多機能クッション」の販売を始めた。ポリプロピレンやポリエチレンを太さ1ミリ以下の糸状にしたものをクッション素材にすることで、長年使用しても弾力性が劣化しない特徴を実現した。今後は用途開拓を進めていく。クッション素材として普及しているウレタンフォームなどと比べ、抗菌性や防カビ性も優れており、水洗いが可能。好きな形状や硬さにも加工できる。もともと、福島県素材開発ベンチャー企業が生み出したものを、リガルジョイントで販売することとなった。価格は厚さ10ミリ×1メートルで1万円(税別)から。用途としては、インテリアのクッションやマットレス、医療・介護関係、緩衝材など幅広く見込んでいる。デザインソファアとして、カバーを付けずにそのまま使用することもできるという。稲場純社長は「さまざまな分野で活用できるはず」としており、積極的に売り込んでいきたい考えだ。

USBケーブル性能を見える化 ビットトレードワン 電子部品製造、ビット・トレードワン(中央区上溝)は、USBケーブル(タイプC規格)の性能をチェックできるアイデア製品「USBチェック」を開発、発売した。写真。同じUSBケーブルでも、急速充電やデータ転送に対応しているかは千差万別。しかし、これまでは確認できるデバイスがなかったという。同デバイスは、こうした見えない情報を見える化する。同製品は、USBケーブルを接続すると、抵抗値(小さいほど充電などが早い)やデータ転送の可否など、計9種類の情報をLED表示する。



さあ、5年後の未来を見に行こう。



新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会